

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

C H R O N I C L E

エヴァンゲリオン・クロニクル

12

定価 **690円**(税込)

2010/4/27



Mechanic Sheet

第10使徒サハクィエル

電子機器

Character Sheet

惣流・アスカ・ラングレー B



Tactics Sheet

第1回機体相互交換試験

Timeline Sheet

マグマダイバー



Installation Sheet

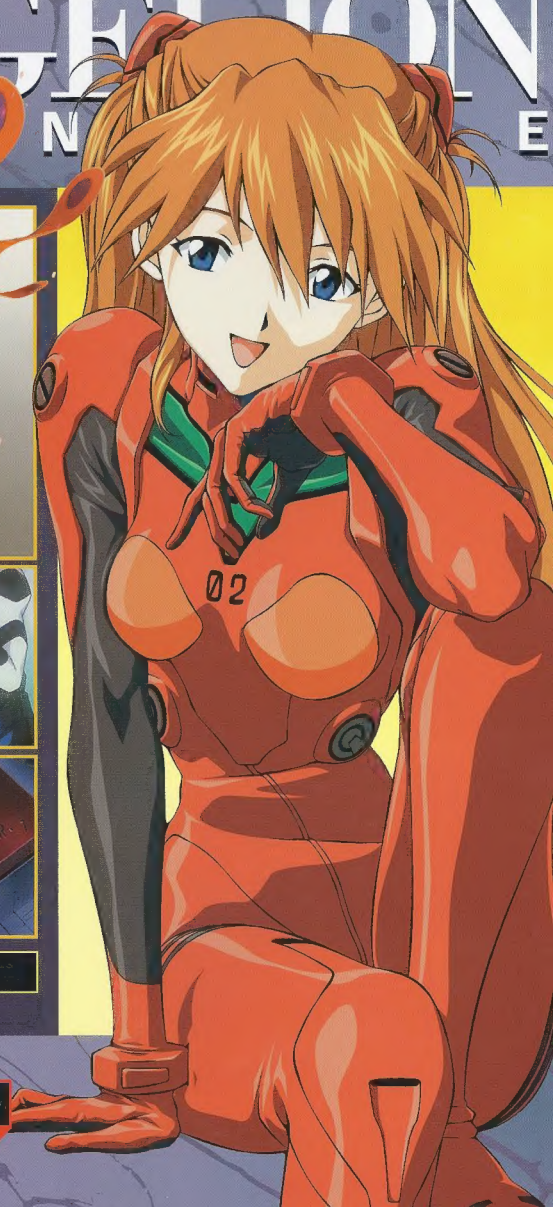
日本国政府

Technology Sheet

MAGI

Extra Sheet

用語辞典／企画書／トピックス



特製 バインダー
発売中!

DEAGOSTINI

総代理 deagostini.jp

第10使徒

サ ハクイエル



自らを爆弾と化して

飛来せし使徒



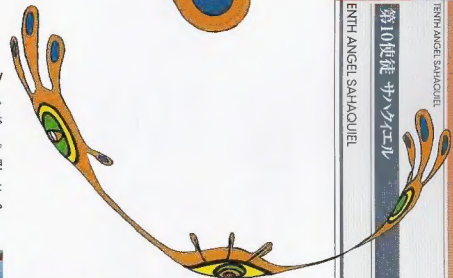
TENTH ANGEL

SAHAQUIEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

使徒そのものが**爆弾**みたいなものですね

(伊吹マヤ)



D A T A

呼称：10th ANGEL

第10使徒

天使名：SAHAQUIEL
サハクィエル

象徴：SYMBOL
空

能力：ABILITY
加重攻撃
質量爆撃
ジャミング

A.T. フィールドを武器として用いた初の使徒

「常識を疑わね」——葛城ミサト三佐のこの言葉が、サハクィエルの特殊性を物語つていよう。ただし、まるで愉快犯のような外見は奇異であっても脅威ではない。特筆すべきはA.T.フィールドの使用方法であり、第3から第9までの使徒が防御手段として用いていたA.T.フィールドを、攻撃手段として活用した初の使徒だという事実であろう。

成層圏に出現したサハクィエルは、NERV本部の破壊可能落下地点を見定めたのち、自らを質量爆弾として降下。しかしEVA3体によって受け止められ、そのまま殲滅された。

ユダヤ、キリスト教神秘主義では空の天使とされる。自らが可る空から地上へ降下したのちに創されたサハクィエルは、まるで天から墮ちたために滅ぼされたかのようだ。



自らの一部を分離させ、A.T.フィールドを纏わせて落下させるという質量爆撃によって自らの着弾地点を奪る。



サハクィエルの本体落下予測範囲。どの場所に落ちてもNERV本部を根こそぎ消滅させるほどの威力を持つ。



落下するサハクィエルをEVAで直接受け止めるという無謀な作戦が実行され、奇跡ともいえる成功を収めた。

関連事項

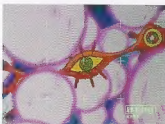
- ID-17
- サーチ衛星
- n航空爆撃
- 使徒
- アダム



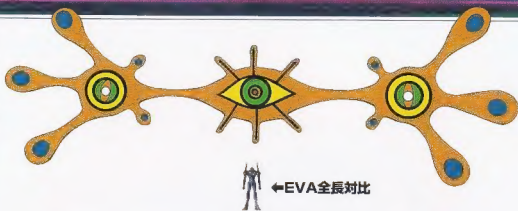
サハクィエル襲撃に際しミサトが発命した大根橋渡邊司令。NEHV本部の半径50km圏内の全市民が緊急避難した。

サハキエルの体構造

目玉模様の中心からアームの仮足（満足）のようなものが左右対称に伸びており、厚みのない身体を持つ。その身体は第6使徒ガギエル以上の体である。



衛星軌道上にて数十発もの核空爆を受け全くの無傷。コアが暴走を止め衛星に直立った第6使徒後サハキエルや第7使徒イスラファルに比べ、サハキエルのA.T.フィールド防衛力は格段に高い。



←EVA全長対比

1 コアと思しき目玉模様

中心の目玉模様の部分にコアが存在した可能性は極めて高い。NERVは、弱点であるコアの位置を予め解析できていたためにEVA3機による要撃作戦に踏み切ったものと考えられ、実際にこの場所を狙って活動を停止させている。また、目玉模様は第9使徒マトリエルにも見られるが、その関連性は不明。



要所である目玉模様の部分にEVA試写機のプロレップ・ナイフを突き立てられ、活動を停止した。

2 質量爆弾と化する身体

A.T.フィールドを撤消させた身体に落下エネルギーを上乘させた質量爆弾、いわば超小規模なセカンドインパクト（隕石の衝突）が最大の武器。NERV本部を破壊可能な着弾地点を割り出すため、まずは身体の一部を分離させて4発の質量爆弾を行ない、光学観測による着弾修正を経て、最後に本体そのものを質量爆弾として降下を開始している。



身体のごく一部の質量でさえ地形を変えるほどの威力を生む。まさしく戦略級の破壊能力を持つ。



↑身体分離時

3 A.T.フィールドを用いた加重攻撃

大量破壊を可能にする質量爆弾だけではなく、A.T.フィールドによって対象を押し潰す攻撃手段も持つ。これは自己に展開するA.T.フィールドを別対象に向けて展開するものと考えられ、赤木リツコが「新しい使い方」と称したように、これまでの使徒にない攻撃的なA.T.フィールドの使用法であった。



対象の全周面にA.T.フィールドを発生させ、内向きに展開された結果面に対してサー子衛星を圧縮させた。

4 強力なジャミング能力

攻防を兼ねたA.T.フィールドだけではなく、電波攪乱によるジャミング能力も備える。これは質量爆弾と化した自己の着弾地点を特定させないためと思われる、サハキエルの位置観測体制を無効とした。また、情報伝達網は寸断され、NERVは両極による総司令の指示を仰げず、独自に作戦を遂行している。



着弾修正のための爆撃後、電波攪乱を行なうサハキエル。そのためNERVでは位置特定が不可能となる。

サハキエルの活動記録

インド洋上空の衛星軌道に出現したサハキエル。質量爆撃による着弾修正でNERV本部を破壊するに足る着弾地点を割り出す。その後ジャミングによって位置をNERVに特定させず、自らが質量爆弾として降下を開始。その際NERVは、落下予測範囲内に3機のEVAを配置、使徒捕捉後に落下地点へ急行し、EVA3機によって受け止める直接要撃作戦を実行する。その結果、本体ごとこの着弾はEVA初機に阻止された。式写機による要撃を受けて活動停止、殲滅された。



サハキエルの落下地点にいち早く対応し、迎撃準備。取りの正確なEVAが到着するまで支え続け、断頭を準備する。



EVA番号機が使徒のA.T.フィールドを切り裂いて本体を露出させたことで、式写機による直接要撃が可能とした。

サハキエル侵攻記録

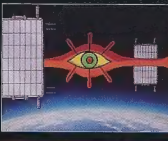
- 衛星軌道線上に出現
- インド洋上空
- サー子衛星を破壊
- 弾道修正
- 光学観測による着弾修正
- 航空空爆雷を受けろ無傷
- 成層圏より降下
- EVA3機による要撃に沈黙
- サハキエル破壊



特記事項

NERVが有する成層圏での索敵能力とサー子衛星

使徒の早期発見はNERVにとって最重要課題であり、地球だけでなく衛星軌道においても他使徒の監視体制が取られている。なお、おそれる監視網を用いていると考えられ、サハキエルの出現から2分足らずで、索敵能力が両使徒を捕捉している。これらには索敵能力に長けたサー子衛星のほか、観測を行なう索敵衛星がある上で、第7索敵衛星はn軌道層面を受け取るサハキエルを撮影している。ただし、使徒によるジャミングは容易く目標を見失っており、地上よりも観測は難しいといわれ、衛星軌道上での情報伝達手段の弱さが浮き彫りになった。



第6サー子衛星は、破壊されるまでの数秒間のデータを送信し、使徒撃滅の役目を果たす。

↑サー子衛星

C

キャラクターシート

Character Sheet

S

惣流・アスカ・ラングレー

Sheet

03

SORYU ASUKA LANGLEY



EVAの
操縦に



NERV



2nd Children

惣流・アスカ・ラングレー

SORYU ASUKA LANGLEY

誇りを
賭ける少女



【個人情報】

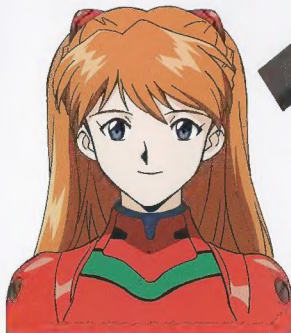
名前	惣流・アスカ・ラングレー
年齢	14歳
国籍	アメリカ合衆国
生年月日	A.D.2001/12/04
血液型	A型
所属	NERV/EVA式号機専属操縦者

幼い頃より操縦訓練を重ねてきた、いわば適格者の中のエリートともいえる存在——。それがEVA式号機の専属操縦者、惣流・アスカ・ラングレーである。来日以来、対使徒戦において最前線に立つことが多かったアスカ。好戦的な性質の持ち主である彼女は、敵を目前にしても物怖じするようなことはないどころか、先だって手柄を上げ自らの優秀さを他人に見せつけることを望んでいる節もある。そんなアスカにとって、前線に立つことはむしろ望むところだったのかもしれない。ちなみに、彼女の操るEVA式号機は量産化を前提に作られたプロダクションモデルであり、局地戦用の特殊装備等にも対応し、実戦配備を想定した機体である。プロトタイプである零号機、テストタイプである初号機と比較しても改良された点が多く見られ、前線に配置されるには最速の機体であるといえる。

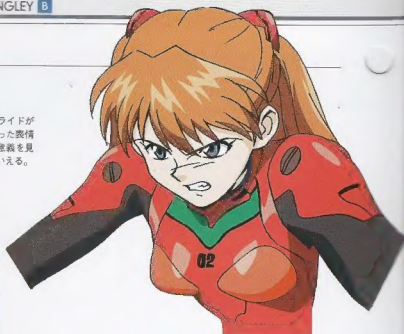
碇シンジが何故使徒と戦うのかといった主旨の疑問をこぼしたとき、アスカは「降りかかる火の粉は払いのけるのがあたりまえじゃない」と答える。この言葉には、自分が人類に降りかかる火の粉を取り除いている特別な存在だという自負と、他人に英雄視されたという願望が込められている。そこからは、使徒に対峙できる数少ない存在としての高い矜持が窺える。ただ、そのEVAに搭乗する理由をさらに突き詰めれば、他人に自らの存在を認められたいという気持ちが見て取れる。この心情は、方向性こそ違うものの、英雄視されるポジションに心地良さを感じていたシンジに近いものといえるだろう。

表情

→指しそうな表情を浮かべるアスカ。非常にプライドが高い彼女は、敵からの攻撃を受けた際にこういった表情を見せることが多い。EVAの操縦に自身の存在意義を見出している彼女ゆえの、余裕のなきの険れともいえる。



↑ブラグスーツを着用して戦場に臨むアスカ。ほかの操縦格好と比べ、自信に満ちた穏やかな微笑を浮かべていることが多い。敵陣に対する緊張や不安より、まず自信が先立つという彼女ならではの表情である。



使徒に対して攻撃を加えようとする際の表情には、まったく曇りが無い。その輝きもアスカの特徴のひとつといえよう。

ブラグスーツ

全体的に赤を基調としたカラーリングのブラグスーツを着用しているアスカ。「女らしさ」を感じさせる一方で「攻撃的」な色ともいえる赤は、アスカらしい人物によく合っているカラーといえるだろう。



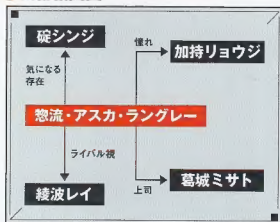
正面

背面

側面

背面アップ

人物相関図



関連書籍

- EVA式号機
- 碇シンジ
- 綾波レイ
- NERV



アスカが専属操縦者となるEVAは、設計と部品製造を日本で、組み立ておよび起動実験をドイツで行なったEVAの制式モデル。

キャラクターシート

Character Sheet

惣流・アスカ・ラングレー

Sheet

03

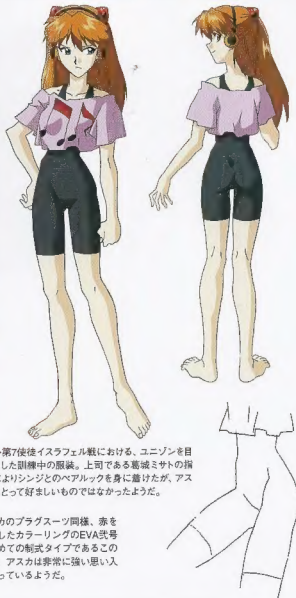
SORUY ASUKA LANGLEY

惣流・アスカ・ラングレーの戦闘記録



↑第7使徒イスラフェル戦における、ユニゾンを目的とした訓練中の服装。上司である葛城ミサトの指示によりランジとペアルックを身に付けたが、アスカにとって好ましいものではなかったようだ。

→アスカのブラストスーツ同様、姿を基調としたカラーリングのEVA式号機。抱めての制式タイプであるこの機体には、アスカは非常に強い思い入れを持っているようだ。



アスカが初戦を迎えたのは、式号機移送中のことであった。第6使徒ガエルの襲撃を受けた際、アスカは自らの判断でランジと共に式号機に搭乗し、関連軍艦隊との共同作戦により目標を撃破する。その後は、対第7使徒イスラフェル戦において、初号機と共に2点同時重攻撃を完遂。第8使徒サンダフォン捕獲作戦では、D型装備により溶岩内に入っても、目標が羽化を始めため捕獲を断念し、殲滅。対第9使徒マトリエル戦においては珍しく目標の溶解液を防御するディフェンス役に回り、使徒殲滅をバックアップ。第10使徒サハイル戦では目標撃破の決定打を与えるという活躍を見せた。ただ、第12使徒レリエル戦以降は精神的な脆さを露呈し、やがて操縦すらままならない状態となる。

全体的に見てアスカの乗る式号機は、共同作戦への参戦が多い。これは当然、3機0EVAを用いた戦術で、より効率的に使徒を殲滅する為である。意図が攻撃に特化しちがって扱いにくいアスカだが、その存在により戦術の幅は広がったものと考えられる。



式号機が第6使徒ガエルの口内に捕獲された際、アスカは両腕を伸ばしてランジと共に攻撃を遂げた。この初戦以降も、様々な形で共同戦線に参加することが多かった。



第9使徒マトリエル溶解作戦を操縦するアスカ。好戦的だけでなく、とっさの事態における高い判断力も持ち合わせている。

戦闘に対してどこか消極的なランジの乗る初号機と、基本的にサポート役となる零号機のみが使徒に対峙していた中、式号機の参戦は対使徒戦においては大きな変化であった。機能、装備共に充分であったうえに、目標の殲滅に対して迷いが無いアスカの操縦する式号機は、2機の欠点を補って余りある存在だったといえる。攻撃に際して非常に高い積極性を持つアスカは、3人の操縦適格者の中でも最前線でのオフェンス役にも最も適しており、式号機にふさわしい人材であったといえるだろう。作戦の立案を担うミサトとしても、アスカのような性質を持った存在は貴重していたものと思われる。

EVA式号機 操縦適格者 としての存在

EVA

に乗る理由



ランジが自分よりも高いランクラムを記録したことにアスカは真摯し、怒りをこぼす。それは、自らの存在意義を守りきれなかった自分自身に対する怒りだったのかもしれない。

第14使徒ゼルエルとの戦いにおいて、式号機は目標にまったくダメージを与えられなかったまま実戦させられてしまった。この事実は彼女の存在意義を大きく揺るがすのだった。



ランジが何故EVAに乗るのかと問われた際に、アスカは「自分の才能を世に示すため」と迷うことなく答えている。また、レイに人に賞められるためにEVAに乗っているのかと問われた際には、「自分で自分を賞めてあげたい」と答えた。これらの発言は、彼女がEVAの操縦適格者であることに自らの存在を賭けているという証左といえる。彼女はEVAに乗り続けることで他人に自分を認めさせ、それにより自らの地位を磐石にしようと試みているのである。しかしそこには、EVAに乗り継ぎに勝利し続けなければ、彼女のアイデンティティが崩壊し続けないという脆さも潜んでいるといえるだろう。

適格者 綾波レイ との関係



→なにかとライブに携わる存在、綾シジ。第7使徒殲滅のための訓練は双方とも乗り気ではなかったが、心を通わせてふたたび見事に作戦を成功させた。これが大きな契機となり、ふたりの交流は深まっていく。

→1のコードレスのヘッドフォンは、第7使徒殲滅のための訓練時に使用されたものである。音楽を聴いたことこの訓練に欠かすことのできなかった道具のひとつだ。



EVAに初めて搭乗した際、41.3%という非常に高いシンクロ率を記録したというサードチルドレン綾シジ。彼に対し、アスカは当初より激しい対抗心を燃やしていたようだ。しかし、自分が負ける訳がないという思いからか、シジに対しては基本的に馬鹿にするような態度を取っていた。第7使徒イスラフェル殲滅作戦の際、シジとの完全なユニオンを求められたことをきっかけとして、ふたりは接触の機会を多く得ることとなる。なお、それ以降、アスカもミサトの家に同居することとなる。本人に自覚があるかどうかは不明だが、多少はシジに対する好意とも取れる感情が見られることもあったようだ。

しかし、シンクロ率において後塵を拝した際、その好意は敵意に反転する。自らの能力がシジに劣ることが明らかになってしまったためである。それ以降、アスカはシジに対し、愛憎入り混じったような態度を見せていくこととなる。EVA操縦適格者として絶対的な誇りを持つ彼女にとって、シジは素直に認められない存在となったのであろう。



シジが第12使徒レイエルの内部より生還した際、さみしい顔そっくりな顔で彼のもとを訪れるアスカ。憎々まれ口を叩きつつ、心配する気持もあつたのだろう。



作戦成功後の食事には、普段は厳格しているレイも誘うアスカ。多少なりとも歩み寄ろうとして見えるが、レイは素っ気無い態度を取る。その素っ気さをも、アスカはからかだせる要因のひとつだろう。

レイが試号機「出雲」を運送した際、アスカは自分の機体に触れられたいと彼女の手を叩く。試号機への愛着と共に、レイに対して嫌悪感を持っていることがはっきり見て取れる。



来日後、初めてレイに会った際、アスカは「仲良くやりましょう」と声をかけていた。一見友好的に見える行動を取った彼女だが、実際には上から見下ろすような態度であり、その後もレイに対し好意的とはいえない態度を取り続けた。レイを嫌う理由については、「人形のようなからだ」と明言するアスカ。ちなみに、レイのことを「昔から大嫌いだった」とも口に出しているが、この「昔」が来日以前を指すのかは不明である。一応、レイとの接触を試みることもあるが、それもあくまで操縦適格者としてある程度の交流は好都合だと考えた上でのことであり、好意から出たものではないと推測される。

適格者 綾波レイ との関係

特記事項

他者との連携の意味

「自分ひとりの力」による敵の殲滅を望みそうなアスカだが、実際に参加した使徒戦は、ほか2機のEVAとの連携作戦が大半を占めている。アスカ自身も連携の重要性を理解しているらしく、自ら作戦を提案する場面も見受けられた。使徒の機流を滞りなく遂行するうえで、複数のEVAを運用するのは当然である。ただしこれには、少々向こう見ずなどところあるアスカにとってサポート役が必須だったという事情も絡み込まれていたものと考えられる。例えば第8使徒の調査、機流においては、ケーブルを切断されてしまいうろろ岩内に沈みかけたところを、初号機より救出されている。試号機単独によるものとされたこの作戦でも、他者との連携が必要だったことが窺える。



↑プラグスーツ(耐熱耐圧仕様)



自分にとって軽視すべき存在、シジとの共同作戦をよそにしたアスカ。当初は、連携の重要性を理解していなかったようだ。

自分を救出したシジに寄り添うため、次の戦線でデ・フアンズ役を買って出たアスカ。一度の連携が、ほかの戦線にも影響を及ぼすケースも。



電子機器

コンピュータ



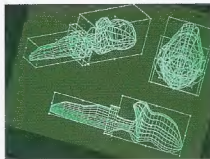
人類に不可欠な

電子頭脳

軍事技術の発展の中で生まれたコンピュータは、もはや人類のパートナーと言っても過言ではないだろう。ミサイルの弾道計算から始まった演算機だが、今や多種多様なプログラムによって人間の手助けをし、高度な作業を成し遂げるには不可欠となった。

NERVが調査組織ゲヒルンであった頃より、未知の存在である使徒との交戦及びオーバーテクノロジーである遺物の研究を行なうため、自己学習能力や不確定データの処理などに長けた非ノイマン型コンピュータが必要とされた。そこで、赤木ナオコ博士により第7世代生体コンピュータMAGIが開発され、組織の根幹を担うこととなる。さらにこのMAGIは、第3新東京市の行政をも受け持つ。

このようにコンピュータは人類が使う道具の中で必須の存在であり、ヒトが持つという知恵の美が生み出した最高の武器といえるかもしれない。



福田アキラは、自分のナイトパルコ（NERVの機体）のパーツを、MAGIのデータベースにアップロードして、そのデータを武器として使用する。

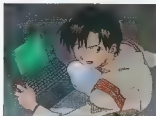


第11使徒イロワム襲来の際、コンピュータはEVAに代わり弾を撃ち止めるための武器となる。

Computer

ノートパソコン

NERVのスタッフには共通のノートパソコンが支給されている模様。サイズは約25cm×約29cmのオーソドックスなタイプで、板状電池とバッテリーのようなサイズのフロッピーが用いられている。これがセカンドインパクト以降の規格なのか、NERVの特注モデルなのかは不明。



緊急時のオペレーションでもなく、ノートパソコンとMAGIのリンクによってEVAの状態もある程度モニター可能である。このことからEVA関連の専用ソフトが用いられていると考えられよう。

フィールドワークが多いであろう作戦部隊の人間にとって、持ち運び可能なノートパソコンは必需品であろう。情報分析等を行なうための高いスペックをもち、多種なソフトを用いていると恐ろれる。



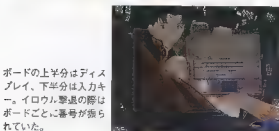
伊吹マヤの所持するノートパソコンの画面の様子。左は起動画面、右は作業画面。

ボード

作業用のコンピュータ端末。サイズは約23cm×約26cmで厚さは約15mm。ほかにも感圧型タブレット式のボードもある。MAGIの定期検診のときなどで伊吹マヤが使用していた。



イロウルのMAGIを乗っ取ったとき、カサバから連立促進プログラムを無効にし、逆り込む間に用いられた。



ボードの上半分はディスプレイ、下半分は入力キー。イロウルの際はボードごと、番号が振られていた。

機 種 名 目

- MAGI
- 伊吹マヤ
- 赤木リツコ
- NERV



カサバ・バルザガーが、メルトオールといふ38歳の人格移植HOGで構成される第7世代の生体コンピュータシステム。



↑開閉時

↑上面

↑底面

1 ディスプレイ



カラー液晶ディスプレイで、EVAの状態をモニターするなどの解像度は高い。赤木リツコは、高次元時代にゲルマンのメンバーと一緒に写った画像をときおり眺めている模様。

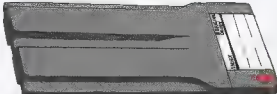
2 キーボード



JIS規格のキーボードを使用。キー部分はアルファベット表示のみでカナ表示はない。ポイントインクタイプで半田付にあるオープンスイッチな作り。

3 記憶媒体

↓フロッピー表面

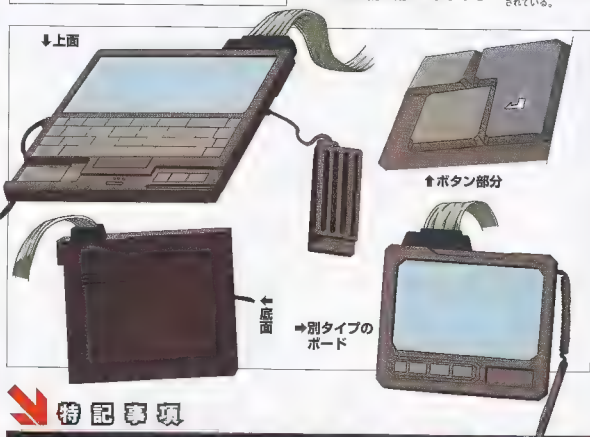


↓フロッピー裏面



書き込み防止用プロテクト↑

大容量メディアと思われるフロッピー「マイ♥ハニー」と書かれた第7使徒イストラフェル作戦アークフロンビーが基城ミサトに渡されていた。



↓上面

↑ボタン部分

↑底面

→別タイプのボード

特記事項

第8号中学校の授業用端末

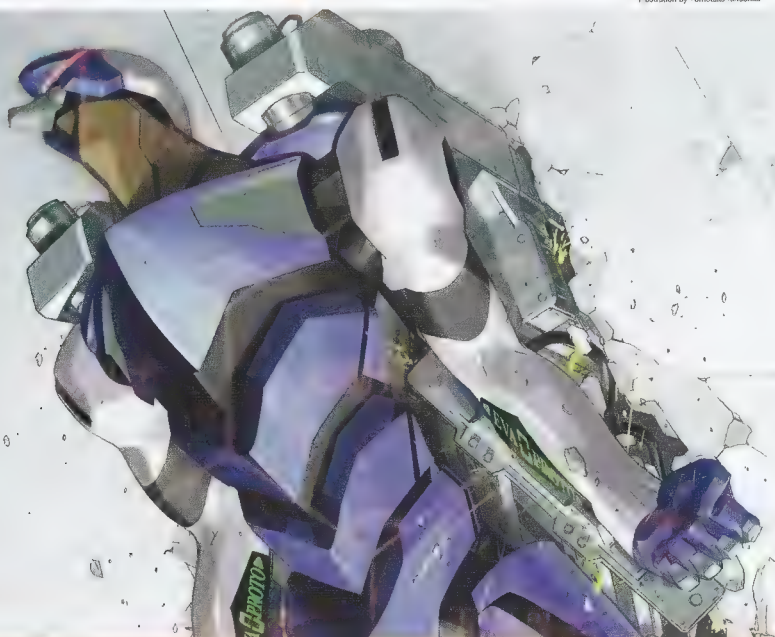
第3新選東京市第8号中学校では、授業においてコンピュータ端末が未使用でいる。これがセカンドインパクト以降の標準的なものか、技術の最先端をいく第8号新選東京市だけのモデルケースなのかは定かでない。ただ、セカンドインパクトを隔たことで天然資源が見直され、メルトオールの産地により部などの資源を消費しないためメルトオール製法の主流となりつつあるのかもしれない。



第8号中学校の授業風景。一部のノートに番号があるのは、異なる端末を使う。



ゲルマンは学校の備品を乗っ取る目的のノートパソコンを持ち込んでいる。



機体相互互換試験で得られたデータは、EVAの運用性を向上させるだけではなく、ダミープラグの関係など、多方面に用いられることとなった。

操縦者とEVAの互換による、運用性拡大の可能性

相互互換試験、その本来の目的とは——？

TACTICS SHEET

EVAと操縦者の関係は、通常の兵器とパイロットの関係とは一線を画している。EVAの操縦者とは、「EVAとシンクロ」できる存在である。これは操縦に関する技術的な適性以前に、EVAが操縦者を受け入れるか、または操縦者と目される人物にEVAに搭乗する資格があるのかなど、通常の兵器では考えられない特殊な選出基準があるためでもある。そのため、シンクロに成功した場合、EVAは事実上、その操縦者の専用機と見なされる。これが、操縦者とEVAの関係の特殊性を表す代表的な例として語られることも多い。しかし、このことがEVAの運用性を低下させる原因ともなっているのである。

例えば、零号機に初号機の操縦者である碇シンジが搭乗しても、機体とのシンクロや彼に合わせたセッティングなどを行わなければならない。操縦者が変わるだけで、これだけの工程が必要となる以上、兵器としての運用性や汎用性は著しく低いとい

わざるを得ない。当然、これらの問題は——操縦者の選出も含めて——、NERVでも早い時期から解決策を模索していたと考えられる。しかし、操縦者や機体の問題、そして使徒の襲来などによって、遅延し続けていたのである。

互いのEVAを交換し、機体とのシンクロ、さらには起動までのプロセスの消化を目的とした「相互互換試験」が実施された時期は、第11使徒イロウルとの戦いの後のことであった。試験では、零号機と初号機の操縦者がそれぞれの機体を交換し、シンクロ率のチェック、さらに数々に亘る接続試験までが含まれていた。なお、武号機とその操縦者は本試験の対象には含まれていない。これは、武号機の操縦者が自身の機体に拘泥していたこと、そして操縦者の「パーソナルパターン」が零号機、初号機のそれとは異なるためであった。「パーソナルパターン」とは、操縦者特有の神経の波長/パターンのことを指す。EVAがこれで操縦者を識別しているとするれば、パターンが似ていることが機体を交換する際の

最大の要因とも成り得ることは間違いない。

こうして零号機に碇シンジが、初号機には綾波レイが搭乗し、機体相互互換試験が実施された。最初に初号機の試験が行なわれ、その後、零号機での試験が実施された。零号機での試験も初号機と同様、シンクロ以降のプロセスを順調に消化していった。しかし、第3次接続試験への移行直後に異常が発生、零号機はかつての起動実験のときと同じ暴走したのである。暴走そのものは「EVAからの操縦者に対する侵食」が原因と考えられた。EVAの運用性の向上を企図して行なわれた相互互換試験は、EVAと操縦者の関係の特殊性を再確認させるだけに留まったのである。

RELATED MATERIALS

- 碇シンジ
- エヴァンゲリオン初号機
- エヴァンゲリオン零号機
- シンクロ率



EVA初号機の操縦者、相互互換試験の際、零号機の内部で綾波レイのイメージを想起した。

相互互換試験の目的

相互互換試験は、操縦者が異なるEVAに搭乗した際のシンクロ率などを調査するために行われたと推測される。零号機と初号機の操縦者は互いに酷似したパーソナルパターンを持っていたため、通常では搭乗しないEVAとのシンクロを成し遂げたと考えられる。しかし、EVAがパーソナルパターンで操縦者を認識しているのであれば、それを発する機器を搭載すれば、操縦者は不要であるという推測も成り立つのである。

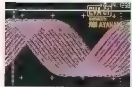
初号機と式号機の試験

初号機は相互互換試験に使用されたが、式号機は定期的な運動試験が行なわれただけである。両機共に問題なく試験を終了している。

TABLE OF CONTENTS

#1 初号機—第1回機体相互互換試験

初号機と綾波レイとの相互互換試験は成功のうちに終了した。その後、接続試験などが実施されたかは不明だが、「零号機起動試験」時の暴走事故などの危険性を考慮し行われなかった可能性も高い。



シンクロ率は零号機搭乗時とほぼ同じであった。しかし、実験レベルの行動が可能かどうかは疑問が残された。

#2 式号機—第87回機体運動試験

式号機の操縦者である碓氷・アスカ・ラングレーは、ほかの機体との相互互換が不可能であった。そのため、シンクロ率等を計画する通常の運動試験が行われるだけに止まっている。



本人も式号機以外のEVAに乗せつもりはなかった。相互互換試験とは別の実験場で行なわれたとされる。

追加報告

囁かれる、ダミープラグ開発の噂

相互互換試験が、操縦者なしEVAを起動させる方法を確立するために行なわれたとする説がある。これはあるが、はじめパーソナルパターンを入力したダミープラグをEVAに挿入し、操縦者がいるEVAに接続させる方法である。



初期のダミープラグは、初号機に搭載され、パーソナルパターンで初めて使用された。



TABLE OF CONTENTS

エヴァンゲリオン初号機

初号機に搭乗した綾波レイは、特に問題もなく相互互換試験を完了している。シンクロ率も零号機搭乗時と変わらなかったようだ。



エントリープラグの中で、彼女は自身に同様の間いかけを行っていたとされる。

エヴァンゲリオン零号機

綾シンジは零号機に搭乗し、試験を行なった。シンクロ以降、試験は途中までは順調に行なわれていたが、零号機の暴走により中止された。



零号機の中で、彼はそこに薄く綾波レイの気配を感じていた。



零号機と初号機操縦者の相互互換試験

初号機の試験が行なわれた直後に、零号機と初号機操縦者の相互互換試験が実施された。試験内容は同じであったが、シンクロ率のチェック以降、

接続試験にも移行している点が異なっている。これは操縦者がEVAとのシンクロや操縦に高い適性を持っていたためと推測される。

TABLE OF CONTENTS

1 相互互換試験、開始

赤木博士の指示により、零号機の相互互換試験がスタートした。エントリーの後、即座に第1次接続を開始、これを完了している。この時点で、操縦者、EVA共に大きな変化は見られなかった。



試験の間接続後は、綾波レイは目覚めたが、それ以外の身体は意識がなかった。

2 セカンドステージに移行

その後、零号機は第2次コンタクトを開始。初号機搭乗時ほどのシンクロ率は得られなかったが、それでもハローモニクス等は正常な値を維持しており、全体的な数値も必要範囲内であった。その後、セカンドステージでも必要項目をクリアしていた。



第2次接続試験項目は、数値も正常な範囲内であった。また、必要項目もすべてクリアされた。

3 第3次接続、開始

セカンドステージの試験項目を強化した零号機は、第3次接続へと移行した。A「神経の接続が開始されるが、突然、操縦者の神経が暴走し、EVAからの精神汚染も確認された。このプラグ深度で侵食が発生することは通常では考えられない。



第3次接続移行した直後、操縦者は目覚めたが、それ以外の身体は意識がなかった。

4 零号機、暴走

制御不能となった零号機は、拘束具を破壊すると自律的な活動を始めた。この状況に対し、赤木博士は電源カットなどの緊急停止措置を指示している。その後、内蔵電源を消費した零号機は実験場の一部を破壊し、停止した。



第4次接続移行した直後、操縦者は目覚めたが、それ以外の身体は意識がなかった。

技術調査

機体相互互換試験における調査結果

「第1回機体相互互換試験」は零号機の暴走という結果を獲した。しかし、初号機の試験では成功しており、さらに、似たパーソナルパターンを持つ操縦者による異なるEVAへの搭乗の可能性や、ダミープラグ開発への

石堂の成果も残している。この相互互換試験で得られたという点では、試験そのものは失敗であり、特に零号機暴走の原因究明や、式号機の互換性の可能性を、解決すべきいくつかの課題を獲すこととなった。

① 零号機暴走の原因究明

繰り返しのプラグ深度に起因した侵食によって発生した侵食。この原因が明らかになれば、より安全な相互互換が可能になると考えられる。



② ダミープラグ開発のためのデータ収集

操縦者なしEVAを起動させるダミープラグ。これは、EVAに「そこに操縦者がいる」と誤認させるためのシステムである。



NERV内では、通常のEVAを起動させるためのシステムと異なる。

新世紀年表

REIN HERBERT
SOPHONOBIOLOGY

A.D.2015

●第3新東京市

01

レンジ、アスカ、レイに戦闘特機命令が下る

旅行に行けないと知ってむくれるアスカ
ある日、アスカは加持リョウジと水着を買いに出かけた。もうすぐ行なわれる沖縄への修学旅行でスクーバダイビングをする予定なのだ。だが、楽しみにしていた旅行は、あっさりと行けなくなってしまった。EVAパイロットの3人はNERV本部を離れるわけにはいかないからだ。「たまには船の乗場所を突きとめておめにかいたらどうなの?」アスカは怒鳴り散らすものの、「それができればやっつるわよ」とミサトの答えはにべもなかった。



沖縄の修学旅行準備中、アスカの加持リョウジと水着を買いに出かけた。もうすぐ行なわれる沖縄への修学旅行でスクーバダイビングをする予定なのだ。だが、楽しみにしていた旅行は、あっさりとして行けなくなってしまった。EVAパイロットの3人はNERV本部を離れるわけにはいかないからだ。



怒りが収まらないアスカに対してあきらめ顔のレンジ。一方、心算の成績不振を知ったミサトは、「おれりどもこれぞいい方法だと思わなきゃ。クラスみんなが修学旅行に行ってる間、少しは勉強ができるでしょ」とチクリ。

A.D.2015

04

作戦コードA-17が発令される

初めての便徒への先制攻撃が決定した

研究所を管理下においたミサトは作戦コードA-17の発動をゲンドウに上申した。ゲンドウはそれをNERVの上部機構である人類補完委員会に打診する。「A-17?こちらから討って出るのか?」ゲンドウの要請を受けて集まった委員会の面々は、リスクが大きすぎると承認を渋る。だがゲンドウは、これは防戦一方だった人類が攻勢に出るチャンスだとして、彼らを説き伏せた。「まきた便徒のサンプル。その重要性はすでに承知のことですよ!」



「これより補完研究所は完全閉鎖。NERVの管理下となり、まず一掃を遂行し、ミサトの安全を確保する。」



「失敗は許さん!」キール・ロランツ議長の後援を最後に、立ち戻る委員会のメンバーたち。失敗か。そのときは人類そのものが消えてしまうよ。本当に、いんだな!」半月のつよきやに、ゲンドウは薄笑い、で答えた。

2015年

第壘中学校の生徒、修学旅行の準備に取り掛かる

レンジ、アスカ、レイに戦闘特機命令が下る

シンジたち、ブルレで補修を受ける

アスカ、熱膨張の問題で悩むシンジをからかう

A.D.2015

08 武号機、浅間山火口内に突入

使徒捕獲用のキャッチャーを手にした武号機が火口上部に配置された。「発進」ミサトの号令を合図に武号機の降下が始まる。「ジャイアント・ストローク・エントリー」アスカはのんきにもスクーパー・ダイビングのポーズを取りながら、マグマの中へと沈んでいった。



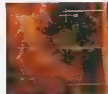
徐々に迫るマグマ。いまいは捕獲作戦の開始である。

舟楫航行に未練たっぷりなのか、スクーパー・ダイビングの真似をするアスカ。



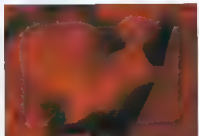
09 武号機、使徒の捕獲に成功

灼熱地獄の中で武号機は使徒を捕獲した。武号機はゆっくりと潜行していった。やがて安全限界深度を越えると、循環パイプに亀裂が入りはじめ、ブログ・ナイフもはじけ逃げてしまう。このままでは観測機と同じように武号機も破壊する恐れがある。たまりかねた日向マコが叫んだ。「葛城さん、もうこれ以上は、今度人が乗っているんですよ!」だがミサトはまったりと続行を告げた。そして危険と隣り合わせになりながら目標予測修正地点に到達したアスカは、そこで巨大な影を発見。見事に使徒を電磁網で囲むことに成功した。



D型使徒をまとった武号機。背中から突き出ているのは冷却網を駆動させるパイプだ。

予想以上に、マグマの対流が早く、使徒がなかなか見つけられない。ミサトはさらに下降を命じる。



灼熱の世界。防護服が融け、汗がにじみ、息を吐きながら、不意な音を立てて、アスカは一度だけのチャンスを見事にクリアした。

展開された電磁網が使徒を取り囲み、アスカは一度だけのチャンスを見事にクリアした。

A.D.2015

12 武号機、使徒と交戦

羽化した使徒は高熱に完全に対応していた

完全に羽化した使徒が、武号機に猛然と襲いかかってきた。武号機は初号機のナイフを手に応戦するが、使徒はそれを受け止めたばかりか、武号機に噛み付いてくる。「まさか! この状況下で口を開くなんて!」驚くリッコ。やがて武号機左側の冷却パイプが使徒に潰りつぶされた。「こんちきりょおお!」アスカはむしゃらにナイフを突き立てるが、この使徒は高温高压の極限状態にも耐え得る身体を備えており、ブログ・ナイフの一撃程度では傷ひとつすらつけられなかった。



→サナダイの状態から羽化した使徒は、古生代の生物に似た胴体に2本の腕を備えている。

やまと手にしたブログ・ナイフで使徒を切りつける武号機だが、あっさり攻撃を返されてしまった。



灼熱地獄の中だ。どうにも使徒はひびくともせず、突き刺さる口を開け、くちくちと噛みついてくる。

必死に使徒を攻撃するアスカだが、使徒はほとんどダメージを受けない。どうしようもない。

13 武号機、熱膨張を利用して使徒捕獲

手をこまねくアスカと、じっと待つかんじの葛城に同じ閃きが走った。「そうだ!」「さっきのヤツ!」そしてアスカは左側のパイプを自ら切断し、それを使徒の口に押し込んだ。「なるほど、熱膨張ね」とリッコ。高温状態から急速に冷却された使徒の体は崩壊してしまっ

まさに絶好絶命。その時、起死回生の閃きが浮かんだ。アスカで何気なく語った熱膨張の理論が、今回の使徒捕獲のヒントとなった。

2015年

使徒捕獲作戦、開始



武号機、浅間山火口内に突入



武号機、使徒の捕獲に成功



使徒、キャッチャーを破壊し、武号機に攻撃を加える
使徒、羽化を開始



ミサト、キャッチャーの放棄を指示



●浅間山

11 作戦内容が「使徒殲滅」に変更

モニターに映し出された使徒のシルエットが異形の姿に変異していくのを見たミサトは、キャッチャーの破壊を命じると同時に作戦を推進殿へと切り替えた。「待ってました!」笑みを浮かべるアスカが、唯一の武器だったプログ・ナイフは先ほど消失してしまっている。ミサトはただちに初号機のナイフを火口へ投下するように指示を出した。



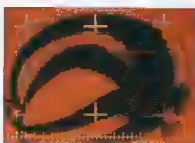
しまった。ナイフは落ちてしまったんだわ。戦う手段がないため、さすがのアスカも強張る。

式号機に届けとばかりにプログ・ナイフを投げ込む初号機。だがナイフはじわじわと吸いつつ、沈んでいった。

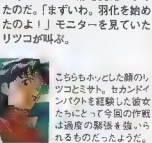
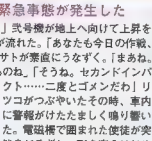


突如、陥り、響く警報音。一転、上へ、これより準備するわ。リリッ! 侵入したアスカは、予選外の事態にアスカは驚き、

「計算より準備するわ。リリッ! 侵入したアスカは、予選外の事態にアスカは驚き、



作戦成功の喜びもつかの間、緊急事態が発生した「捕獲作業終了。これより浮上します」式号機が地上へ向けて上昇を開始すると、指揮室内には安堵の空気が流れた。「あなた今日の作戦、怖かったんでしょ」リツコの言葉に、ミサトが苦笑いをする。「まあね。下手に手を出せば、あれの二の舞ですものね。『そうね。セカンドインパクト……二度とゴメンだわ』リツコがつぶやいたその時、車内に警報がけたましく鳴り響いた。電磁障で囲まれた使徒が突然身じろぎし、形を変えはじめたのだ。「ますいわ。羽化を始めたのよ!」モニターを見ていたリツコが叫ぶ。



こちらから見た顔のリツコとミサト。セカンドインパクトを経験した彼女たちにとってあの作戦は過激な訓練を強いられるものだったようだ。

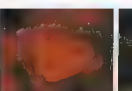
10 使徒、羽化を開始

作戦成功の喜びもつかの間、緊急事態が発生した「捕獲作業終了。これより浮上します」式号機が地上へ向けて上昇を開始すると、指揮室内には安堵の空気が流れた。「あなた今日の作戦、怖かったんでしょ」リツコの言葉に、ミサトが苦笑いをする。「まあね。下手に手を出せば、あれの二の舞ですものね。『そうね。セカンドインパクト……二度とゴメンだわ』リツコがつぶやいたその時、車内に警報がけたましく鳴り響いた。電磁障で囲まれた使徒が突然身じろぎし、形を変えはじめたのだ。「ますいわ。羽化を始めたのよ!」モニターを見ていたリツコが叫ぶ。

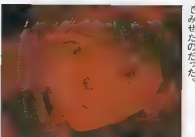


14 初号機、式号機の救出に成功

マクマに沈む式号機を救い出したのは初号機だった。やっとの思いで使徒を倒した喜びもつかの間、式号機と地上を結ぶパイプが激しい地震で切れてしまう。それに気づいたアスカは勝かにつぶやいた。「せつかつやつのに……やだな。ここまてなの?」その間にも防護網が音を立ててつぶれはじめ、ついにパイプが切れてしまった。



あつらひぬ縁かな表情でぼんやりとモニターを見上げるアスカ。そんな彼女を見つめ、沈みゆく式号機だった……。式号機に冷気流を循環させてパイプは激しく揺られていた。



式号機の腕をさつかつかた初号機。遠く深淵に沈みかたわらぬアスカの胸に突くセカンドインパクトでできたという大きな傷跡。それを横目で見たアスカが言った。「……知っているんでしょ。私のことも、みんなも。仕事だからね、ミサトはいい!」笑いながらお互い、もう言うこともだも。お気にすることないわ。そう穏やかにつぶやいたのだった。

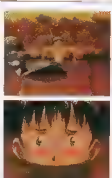
「ハッ、ムリしちゃうと、ミサトは己にやらないでね。アスカは早くと、それやもって、僕も早くおめしたのよ。」

A.D.2015

●近江屋

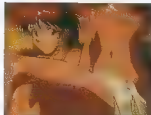
15 シンジたち、温泉宿で休息する

作戦終了後、シンジたちは浅間山近郊の温泉を訪れた。ミサトの胸に突くセカンドインパクトでできたという大きな傷跡。それを横目で見たアスカが言った。「……知っているんでしょ。私のことも、みんなも。仕事だからね、ミサトはいい!」笑いながらお互い、もう言うこともだも。お気にすることないわ。そう穏やかにつぶやいたのだった。



加持から届けられたペンペンとも濃かに漬かっていたシンジは、女湯の様子を聞いて赤くなってしまふ。

一方、女湯で沈む夕陽を眺めているアスカとミサト。彼女たちは、それぞれ抱えられた「苦痛を抱えていた。



シンジたち、温泉宿で休息する

初号機、式号機の救出に成功

式号機、火口から脱出不可能な状態に陥る

式号機、熱膨張を利用して使徒を殲滅

式号機、使徒と交戦

作戦内容が「使徒捕獲」から「使徒殲滅」に変更

MAGI

MAGI

旧約聖書の一節「創世記」によれば、全能なる神に似せて生み出された人間は、知恵の実を食することで神に匹敵する知恵を獲得した。この記述を類面どおりに受けとめれば、人間は神と同様の創造が可能ということになる。その後、科学技術を発展させた人間は、自らと同じように考え、判断を下す存在を生み出すとした。それがコンピュータ——人工知能開発の立脚点である。そして試行錯誤の果てに、ついには人工知能が誕生した。西暦2010年に起動したスーパーコンピュータ「MAGIシステム」こそは、人類が夢見た人工知能開発のひとつの到達点だといえるだろう。

コンピュータの発展の歴史を時系列順にカテコライズすると、MAGIシステムは「第7世代有機コンピュータ」に分類される。1946年に誕生した最初期のコンピュータは演算装置に真空管を用いた巨大で扱いにくい代物だった。とはいえ当時の研究者たちは自律判断を下す機械（シンキングマシン）の誕生として、その機械をもてはやしたのである。その後時代が下ると共に急速な技術革新が起り、コンピュータの開発分野にも大きな変革が訪れた。シリコン素子の登場である。真空管に取って代わったシリコン素子によってコンピュータは小型化され、演算速度も飛躍的に向上した。第2世代はトランジスタ、第3世代はLSI、第4世代は超LSIを演算装置の中核としている。さらに第6世代以降では生体部品を用いた有機コンピュータの開発がさかんとなり、ついには人間の脳を模した第7世代有機コンピュータの開発に帰結したのである。ひとくちに人工知能の開発といっても、その背後には科学者たちの連綿とした研究と技術革新の歴史があるのだ。

だがここでひとつ疑問に思うことがある。高度に発達した人工知能は、はたして人類に何をもたらしてくれるのだろうか。読み古されたSF小説が示すように、人工知能によって人類が支配されるような事態は起こりうるのだろうか。神は自らの被造物である人類が自分に匹敵する知能を得たと知るや、楽園からの追放を決定したという。だとするならば人類の被造物である人工知能が我々に匹敵する知恵を持つに至った時、果たしてそこにはどのような未来が開けるというのだろうか。

SELECTED MATTERS

NERV

- 赤木リツコ
- 赤木ナオコ
- 第11使徒イロウル歳
- NERV強制収容



碓氷の下部組織。あるなる組織間、管状と呼ばれる立体不明の自律兵器の増産を目的に組織されたが、謎の部分も多い。



赤木ナオコが手掛けたシステム

開発担当者

開発現場で指導的役割を果たしたのは赤木ナオコとその僚のリツコである。人工進化研究所(を隠れ裏としたゲイルン)に入所したナオコは、組織が保有する深沢な予算と人的・物的な保護を受けてシステム開発に着手。のちにリツコもそのサポートを務めていた。ちなみにナオコの専門は人格移植OSの研究であり、自ら的人格をOSに転写するなど、その開発に並々ならぬ意欲を燃やしていた。一方、E計画の遂行に高性能演算システムを必要としたゲイルンがナオコに接触し、彼女も組織の力を借りるために協力を申し出たのだと思われる。

建設中のジオフロントに入りこんだナオコ。毎晩の夜に目覚める毎夜、無機質な壁を思いめぐらした。



学生のリツコもナオコに連れられてゲイルンに顔を見せ、その後、母と同じ道を進むことになる。

3つの視点から見た

基本的な構成

MAGIシステムは単体のスーパーコンピュータではなく、3基の超型主ディカルから構成されている。メルキオール、バルタザール、カスパーと命名された各基には人格移植OSが搭載され、そこに開発者であるナオコの人格パターンが転写されている。これによって3基は奇妙に真なる判断を下す。この差異が人間の心に著しいブレマを表現するというのである。ある課題を提示された時、OSの異なる3基はそれぞれ別のアプローチ方法で課題を審査し、決定を下すのだ。画一的な回答ができない従来の人工知能とMAGIシステムの決定的な差は、人の心を模したこの構成にあるのである。

集合時のオペレーター席から構築したMAGIシステム。この位置から3基が独立しているのがわかる。



各基の下面には冷却パイプに取り囲まれたシステム本体が配置され、熱伝導以外には封印されている。

基礎理論提唱者
赤木ナオコ

NAOKO AKAGI

基礎理論OSを輸入したコンピュータ・コンコウス。MAGIシステムは基礎理論OSをコアとして、東京の中心部から生活を送り出すほどの学術的実用性。リツコの電子回路は発達したとされる。



特記事項

MAGIに関する不可解な死

MAGIシステムの起動直前、ナオコはゲイルン内で不可解な死を遂げた。死因は自殺による全身打撲と推定されている。当時の彼女に自殺するような理由が見当たらず、事故と嫌疑の両向きで捜査が行われた。だが極めて閉鎖的なゲイルンでの調査は難航し、最終的に原因不明のまま、事故死として処理されている。しかし一部の情報によれば、ゲイルン所長の錠ゲンドウは彼女と恋愛関係があったとされ、それが事件と関係しているのかもしれない。

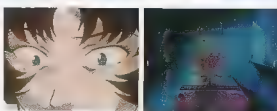
システムアップ担当
赤木リツコ

RITSUKO AKAGI

アオコの死後、その研究を受け継いでMAGIシステムを完成させた人物。ただしリツコが閉鎖的に調査でほとんど人の監視下で研究を進め、精神が不安定な面がある。



アオコが精進して開発したMAGIシステム。自身を投げ出したアオコ。MAGIシステムを掴むための死に方についての意味づけがなされている。それはアオコが知ろうのない事情である。



自分が精進して開発したMAGIシステム。自身を投げ出したアオコ。MAGIシステムを掴むための死に方についての意味づけがなされている。それはアオコが知ろうのない事情である。

MAGIシステムの基本構成



対立モード

MAGIシステムが問題解決に出たモード「対立モード」と呼ぶ。課題を提示された時、MAGIシステムを構成する3基はそれぞれ異なる解答を下すのだが、それが最終的な解答になるわけではない。各解答が出現した段階で3基には必ず合意判定が発生し、多発決によって解答が提出されるのである。合意の判断基準は各基に移植されたナオコの人格パターンであり、従来のコンピュータと対峙した産物と判断されるべきになっている。

自己診断モード

起動以来、E計画の遂行管理をはじめとする重要な案件を多数受け持つMAGIシステムだけに、判断ミスは許されるものではない。そのためシステムは定期的にメンテナンスを行い、常に最適な状態を維持しようとしている。このメンテナンスを実行中の状態を「自己診断モード」と呼び、メンテナンス中の場合は②の表示が現れ、診断することで作業は遂行する。メンテナンス間隔は不明だが、かなり頻密に行なわれているようである。

MAGIシステムの配置

NERV本部に置かれたMAGIシステムは、中央作戦司令部の一角に配置されている。室内には司令席と併せられる設備を備えたような司令席があり、発令席上部にオペレーター席、下部にMAGIシステムが置かれている。オペレーター席から下を覆うMAGIシステムが固定され、MAGIシステムがNERVの作戦行動に重要な位置を占めていることがレイアウトからも推測できる。



オペレーター席

MAGIシステムの最上位置しているのがオペレーター要員の座席である。システム操作や各種制作チェックはこの席から行われ、MAGIシステムの状態を監視するための重要なポジションといえる。ちなみにオペレーター席は3つしかないが、作戦要員として十分な数確保されるかもしれないが、システムが高度に自律化されているため、これでも充分な人数であるようだ。



オペレーター席にはほぼ固定のキーボードと立体視覚式のモニターが設置されている。

MAGI本体

司令席脇に置かれたMAGIシステムはMAGIシステムを構成する本体の上部にあり、本体の下部に封印されている。同時にこの状態を守る本体は多数の冷却用ファンで覆われ、さまざまな大気の外気を取り入れ、さらに内部にはメンテナンス用の専用通路が設けられ、発着日にはMAGIシステムの中核となる有線コンピュータが置かれている。この有線コンピュータはオゾン分解装置が稼働されているのである。

MAGI

MAGIシステムを構成する3基のサーバーコンピュータは、司令席の中敷あたりにそれぞれ独立した形で設置されている。これはハッキングをはじめとする侵入工作への対策であり、たとえ2基が乗っ取られても、残る1基でNERV本部の運営を司れるようにするためである。また、基本的監視には専属オペレーター席が設けられ、メンテナンスと稼働状態確認も担当している。



3基それぞれ異なるサブプログラムを同時に実行し独立した監視任務をこなすのが見られる。



本体内部には開発者が記した識別コードのメモが所狭しと貼られており、もちろん機密情報である。

MAGIの機能

高度演算処理とマルチタスク能力に優れた第3世代有機コンピュータであるMAGIシステムは、NERVが遂行する各種計画の管理と円滑な遂行に携わっている。戦闘では使徒殲滅に関する作戦立案や作戦行動の推移、出撃したEVAの監視など、多岐に渡る業務を同時にチェックできるのもMAGIならではのことである。また平時においてはEVAパイロットのシンクロ率試験やEVA本体の補修を監視すると同時に、E計画や人類補完計画の進行状況を管理するなど、MAGIシステムはNERVの運営に欠かせない機能を有しているのである。

さらにMAGIシステムの機能は第3新東京市の施政にも反映されている。市議会が存在しているものの提出された議案の可否を判断するのはMAGIシステムであり、議員たちは決定事項を連絡する際に過ぎないのである。

人の力だけでは1分もかかっていたハモニクス試験も、MAGIシステムから瞬時に必要なデータを取得できる。



一部のスタッフしか知り得なかったダミープログラムの開発にも、MAGIシステムの能力が用いられた。

特記事項

複数建造されたMAGIシステム

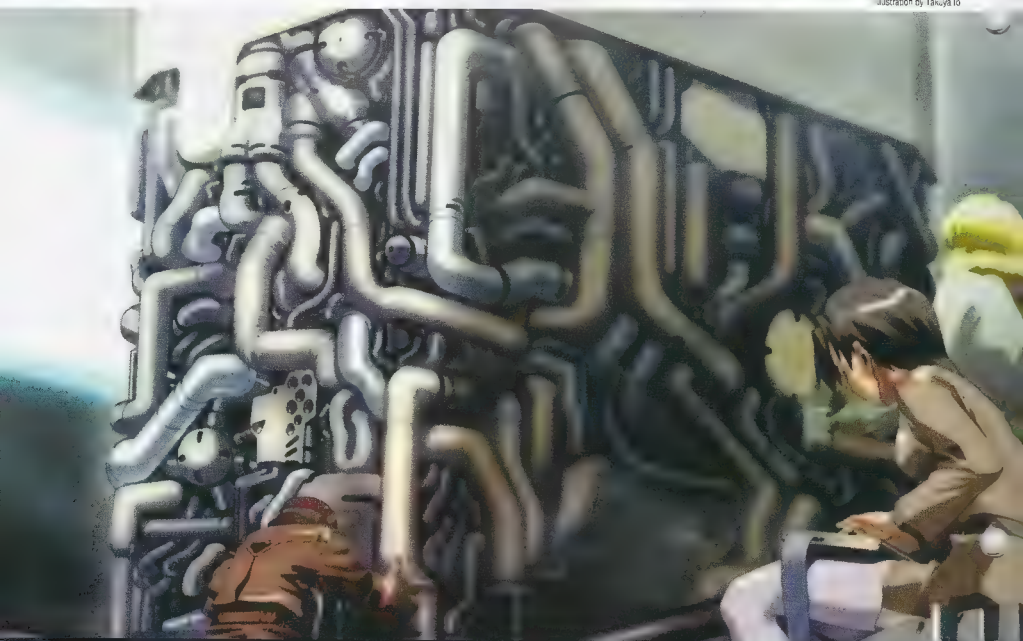
オリジナルのMAGIシステムが完成した後、複数のMAGIタイプ・コンピュータのコピーが建造された。松代に設置されたMAGI2号機をはじめ、アメリカと中国に1基、ドイツに2基のコピーがあることが確認されている。これらはオリジナルのMAGIシステムと同様のスペックを有しているが、NERV本部にはシステムに精通しているツツコなど優秀な人材がそろっているため、有事の際の対応性は1コピーの方がやや劣っていると思われる。またコピーに搭載された有機コンピュータに移植された人格パターンが、オリジナル同様、ナオコのものであるかどうかは定かではない。



中央のオリジナルの周囲に見るのがコピーされたシステム。各基間で行われた実験などの管理を担当していたと思われる。

のちに5基の1コピーはオリジナルのシステムに利用されたが、ツツコが原因とした事故の前には5基の下がらざるを得なかった。





NERV本部のあらゆる情報が集積されるMAGIシステムだけに操作不能状態ではならないことであり、定期補修は重要な作業である。とはいえほとんどのオペレーターでもMAGIシステムの底層回路が理解できておらず、有事の際にはリツコのような人材が必要となる。高も近する。リツコがいなければMAGIシステムの能力は十全に使いこなせず、それがこのシステムの唯一のネックといえるであろう。

各種侵入を警戒するNERV本部の防壁を突破して侵入した。リツコは、NERV本部のあらゆる情報が集積されるMAGIシステムだけに操作不能状態ではならないことであり、定期補修は重要な作業である。とはいえほとんどのオペレーターでもMAGIシステムの底層回路が理解できておらず、有事の際にはリツコのような人材が必要となる。高も近する。リツコがいなければMAGIシステムの能力は十全に使いこなせず、それがこのシステムの唯一のネックといえるであろう。

侵入への対策

国連（実際にはゼーレ）の下部組織にあたる特務機関NERVには、日本国政府や国連にも公表されていない情報が蓄積されており、それを外部から保護することもMAGIシステムの重要な役割である。そのためMAGIシステムには物理的、ソフトウェア的な防御手段が複数用意されており、外部からの侵入者に対しては怒るべき防御手段を持って機密保持に努めるようになっている。

この画像はMAGIシステムと外部回路との接続を示している。外部からの侵入は不可能となる。



MAGI本体に通じる回路は複数層に分かれているため、その途中の回路に妨害を興隆することもできる。

1 物理的閉鎖

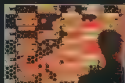
外部との接触経路となるI/Oケーブルを遮断したり、ケーブルにつながる回路をオフにすることでMAGIシステムへの侵入を阻止する。もっとも確実な防御手段だが、実行するとMAGIシステム（特にNERV）が情報的に孤立する恐れもある。



電源オフにはふり以上のオペレーターの数が必要となる。

2 ファイアウォールの展開

プログラムのな防壁を展開し、外部からの侵入をシャットアウトすることもできる。簡単かつ効果的な手段であり、侵入経路や手段によって異なるプログラムが選択される。ただし侵入者の能力が防壁を上回っているとき有効とできない。



防壁は簡単に展開されるが、完全なものではない。

3 プログラムの書き換え

上記の手段でも効果がなかった場合、侵入者の特性に合わせて対抗プログラムを作成し、それをMAGIシステムに実行させることになる。とはいえプログラム作成には時間と相当の知識が必要であり、リツコのような人材が必要となる。



第11使徒を自衛隊させたため、この方法が用いられた。

特記事項

ふたつのMAGI侵入事件

●第11使徒の侵入

マイクロサイズの第11使徒は、NERV本部に納入された資材に身を隠め、自らの組織を光学回路に変換させてMAGIシステムにハッキングを仕掛けた。そしてメルキオールとバルザールの2基が襲取られ、



最終的には本部の自衛自衛隊が提出される事態にまで発展した。

まずメルキオールに侵入した使徒はバルザールを侵襲、さらにカスパーをも襲った。

●ゼーレによるハッキング

NERV本部稼働を目論むゼーレは、暗黒自衛隊による直接攻撃に先駆けて、MAGIシステムのコピーを駆使した攻撃型ハッキングを実行。5基のコピーからの侵入に防壁突破も時間の問題かと思われたが、リツコが作成したBダナン型防壁（666/プロテクト）が功を奏した。



リツコが開発させた防壁は、62時間の間、外部からの侵入を完全に阻止する能力を発揮した。

生体コンピュータ

バイオコンピュータとも呼ばれる、生物の神経細胞構造を活用したコンピュータのこと。生体物質を利用することで、従来のコンピュータが苦手とした自己学習能力、抽象的なデータや不確定性の強いデータの処理などに秀でた性能を持つ。MAGIは、赤木ナオコ博士が開発した生体コンピュータシステムである。



1基だけでも樹木の技術やコストを要するものと推測される生体コンピュータが、3基用意されたMAGIシステムはまさに究極の生体コンピュータであったといえるだろう。

生体部品

EVAの機体に用いられているパーツ。身体を構成している部品はほとんどが生体部品と思われ、第七話において、第5使徒ラミエル戦で大破したEVA零号機の胸部生体部品製造の発注を行っていた。その修理作業時は「アポトーシス」「ネクrosis」「マトリクス」「ヘイフリックの限界」などの生物学用語が用いられている。



第16使徒アラムニエルが零号機の生体部品を採食した際、モニターには「PENETRATING」(侵入する)と表示され、生体部品と思われるTORSO(胸)、ABDOMEN(腹)、PELVIS(骨盤)への浸食状況が表示された。

生体融合

独立した個体生命同士が、有機的に結合すること。第16使徒アルミエルは、EVA零号機と機體のなごりの接続を試み、腹部などから生体部品を採食することにより生体融合を図った。



レイが零号機の自機プログラムを起動させてアルミエルごと自體のため、使徒とEVAの生体融合が遂げられることはなかった。

政府専用列車

政府関係者のみが使用する専用列車。NERV職員などもこれを使用する。第拾九話において、碇シンジがNERVから離れようとした際に乗り込もうとした列車も、この政府専用

列車であり、新編機過本発着の新厚木行き、特別急行R-13というものだった。その際に第14使徒ゼルエルが襲来し、非常事態により列車は運行となる。

生命維持モード

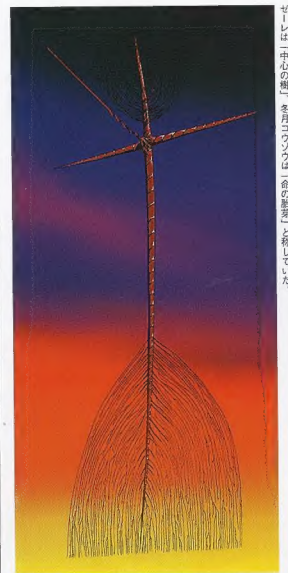
碇シンジが、第12使徒レリエルを形成するディラックの海に取り込まれた際に使用したモード。予備電源、L.C.Lの浄化機能、プラグスーツの保温機能などを最低限で動作させることにより長時間の生命維持を可能とする。戦闘モードからの生命維持モードに切り替えることによって、操縦者はおよそ16時間の生存を保障されているようである。



プラグスーツの左手甲部にあるハンドモニターによって、生命維持モードの経過時間を確認することが可能。

生命の樹

ゼーレが行なった人類補完の儀式において、ロギヌスの樹とEVA初号機が一体化した際に発生した巨大な十字状の樹。このあと、実体化したリリスの顔の中へ飲み込まれていく。なお、旧約聖書の「創世記」において、エデンの園の中央、知恵の樹と並んで植えられた樹は生命の樹であるとして、カバラにおいては「セフィロートの樹」とも呼ばれる。セフィロートの樹も参照。



「セフィロートの樹」は、まろくつての「生命の樹」を指している。

生命の実

旧約聖書「創世記」に登場する、エデンの園の中央に植えられた生命の樹になることされている実。これを食べることでより永遠の生命を得ることができ、知恵の実とこの生命の実の両方を食べたものは、神と同じ存在になることができるとされている。禁を破って知恵の樹の実を食べてしまったアダムとイヴが、生命の実も食べるのではないかと恐れた神は、エデンよりふたりを追放することと決めた。使徒は生命の実を持つ存在であることされているが、この生命の実とは、使徒の持つS機関を指す言葉であるとも推測できる。使徒と人間は本来同じものであるが、使徒は生命の実を食べ、人間は知恵の実を食べる存在のかもしれない。



EVA初号機は第14使徒ゼルエルを捕食することにより、生命の実を手に入れることとなった。

生命のスープ

原始のスープともいわれる非生命過程を経て合成された有機化合物の液体。生命の源であったという原始地球の海であり、この海で無機物から有機物がつくられ、その有機物の反応によって生命が誕生したという化学進化説が、有力な生命誕生説である。第14使徒ゼルエルとの戦闘の際、EVA初号機エントリーアップのL.C.L成分が化学変化を起こし、原始地球の海水に類似した状態となる。それを聞いた葛城ミサトは生命のスープと語った。



L.C.Lもまた、生命のスープと同質のものであった。補完が行なわれた碇シンジの意識の中で、種彦レイは「ここはL.C.Lの海。生命の源の海の中」と語っている。

ゼーレ

「真実死文書」の記述に基づき、人類、人類補完計画を推進させるべく特務機関NERVを操る国際秘密結社。結社の発足は古くは、欧州にて誕生した。2015年現在、その影響力は世界規模に及び、国連をも掌握する強大な組織となっている。彼らの会議は、全員がモノリスのホログラムを通じ、姿を現すことなく音声のみで行なわれる。当初は碇シンジと目的を同じくしていたものの、次第にその目的の差異が顕化、確執が明確なものとなり、人類補完計画の発動

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ

エクストラシート xtra Sheet

を目前として、NERV本部施設の直稼占拠をもくろみ、戦略自衛隊を送り込んだ。なお、ゼーレ (SEELE) はドイツ語で「魂」の意。

ゼーレ、魂の座

第拾四話のサブタイトル。「魂の座」とは、綾波レイがセントリープラグを指して言った言葉である。なお、英文タイトル「WEAVING A STORY」は「物語を紡ぐ」の意。ゼーレが収集した情報を分析する権が、物語をなぞるのように見えることをしていると思われる。ちなみに、第弐拾話の英文タイトルは「WEAVING A STORY 2:oral stage」である。

ゼーレのエンブレム

遊三角形に7つの目を記した図案。NERV本部最奥部、ターミナルガドゥラに設置されたリリスに繋がれている仮面も同じ図案が施されている。また、セントラルドグマ、人工進化研究所第3分室の扉にもこれに類似した図が記されているが、それぞれ関連は不明。なお、新訳監査にあるヨハネの黙示録の一部には「羊に在りては7つの角と7つの目があった。7つの目は人々に遣わされた神の御霊である」との言葉がある。



向かって左に3つ、右に4つの目玉が描かれている。この図案にいくつかなる意味が込められているのかわからない。

ゼーレのメンバー

ゼーレのメンバーはモノリスのプログラムを用いて場に現れるため、どのような人物が存在しているのかわからない。ただ、人類補完委員会のメンバーは皆ゼーレの幹部を務めていると考えられ、委員会の議長キール・ローレンツは、ゼーレにおいても発言力の高い地位を占めているようである。



01がキール・ローレンツであること以外、メンバーの詳細は不明。モノリスの姿をとって襲われる人型も定かではない。

世界の中心でアイを叫んだけもの

最終話のサブタイトル。ハルラン・エリスン著「世界の中心で愛を叫んだけもの」に由来したものとと思われる。「アイ」は「愛」とも「I」(自分)あるいは「真 (かなしみ)」とも読める。なお、英文タイトル「Take care of yourself」は「お体を大切に」という意味で、別れる慣用句。心や体を病んだ人々への慰ましも、自らの可能性を認め、未来に向かっていく綾シンジに対する言葉と解釈できる。



自分が自分であることを確信し、「僕はここにいっているんだ」とシンジが叫んだ瞬間、彼の世界は広がった。

「セカンドインパクト」

綾シンジが家を出た際に入った映画館にて、オールナイト上映されていた映画。観客はほとんどおらず、イヤックアベックのはが3人の中年男性だけであり、誰も映画を見ていなかった。内容は世界注目の怪物を操る特種パニック巨編らしい。セカンドインパクトは誰も知る出来事であり、それ題材としたエンターテインメントもシンジたちの生きる時代には多いのかもしれない。



家出したシンジは、この映画館ロビーのソファで一晩を明かした。

セカンドインパクト

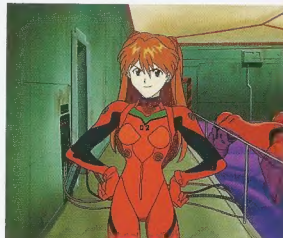
2000年9月13日、南極大陸マーム山にて発生した地球規模の大震災。史上最大の大爆発であると言われる。それにより南極の水が融解、津波の発生も合わせて海面が数10mにわたって上昇。当時の世界人口の半数が死亡した。その後も世界各地で地震や紛争が発生、各国は混乱を繰り返すこととなった。また、日本が常夏の日となり、セカンドインパクトの爆発エネルギーにより地球の自転軸が傾いたためとされる。国連の発表によると、セカンドインパクトの原因は大質量隕石の衝突と説明され、学生の教科書には歴史的事実として記載されている。この隕石の直径は10cmに満たず、世界各地の天文台も事前発見が不可能なほど小さなものだったが、その衝突速度は光速の95%もあり、質量14.02×10²⁴kgにも上ったと推定されている。しかしこの人物はゼーレにより操作されているもので、真相は南極大陸で発見された光の巨人アダムを卵にまで還元することによって発生した大災であるという。



爆発直後に衛星軌道から捉えられた高緯度。なお、惑星探査機「イ」の生き残りである惑星ミサトは、天に昇る2粒の光を自撃していた。

セカンドチルドレン

マルドゥック機関が選出した2人目のエヴァンゲリオン乗組員候補者。惣流・アスカ・ラングレーがセカンドチルドレンであり、EVA1号機の専属操縦者となる。彼女は6、7歳の幼き頃より見出されて訓練を受けたエリートであり、選抜者の中でも高いシンクロ率を持つ。惣流・アスカ・ラングレーも参照。



EVAの操縦者となるべく幼く訓練されてきたエリートのためプライドは高い。そのため自信を喪失した際の失意は甚まると知らず、セカンドチルドレンは心折れ状態へと陥った。

接触実験

計画の過程で行なったと思われるEVAの実験。綾ユイと惣流・キョウコ・ツェベルグが被験者となっており、実験の結果ユイは消失、キョウコは精神崩壊を起こす。また、葛城隼彦隊は南極で発見した巨人に対し「提供者」と「接触実験」を行っていたようだ。



幼い頃の綾シンジはユイの接触実験に居合わせ、母親が消失した現場に立ち会っていた。

絶対境界線

EVAと操縦者との神経接続の際に、双方両面が開かれる境界線。これを突破することにより、EVAの起動が可能となる。



D24とD25の境にある「BORDER-LINE」の表示が絶対境界線である。

日本国政府

遷都を中心とした活動と国連との交わり

西暦2000年に発生したセカンドインパクト、さらにはテロリストの攻撃により壊滅状態となった日本の首都——東京。早急な遷都を決定した政府は、第2新東京市の建設に着手した。同市は2003年に完成に至り、以降、日本の統治機関はここに位置することとなる。ちなみに2005年には第2次遷都計画が国会で承認され、第3新東京市の建造が始まる。ただ、こちらは国連の主導で進められ、2015年に至っても遷都は行われていない。遷都という名目はあくまで使徒迎撃用の都市建造を偽装するためのもので、政府がその都市建造を了承したということは、少なからず使徒に関する情報を得ていたとも考えられる。

そうして迎えた2015年、予期されていた使徒襲来が現実のものとなる。政府は国連の特務機関NERVをサポートする形でこの有事に対応。しかしその一方で、NERVへの情報公開請求のための法的整備、日本重化学工業共同体への内務省の関与といった相反する活動にも着手していた。なお、日本国首相は人類補完計画の最終段階において、NERVが遂行する人類補完計画の目的が「人類すべてを消し去るサードインパクトの誘発」だという誤った情報を得る。計画を阻止すべく戦略自衛隊によるNERV本部施設の占拠が実行に移されるが、これがゼーレの直接的な指示による行動なのか、あるいは情報操作により操られた結果なのかは明らかになっていない。

第28放置区域(旧東京都心)

長野県 第2新東京市

関連事項 第2新東京市、第2新東京市、第2新東京市

- 第2新東京市
- 国連
- 戦略自衛隊



2015年における日本の首都。長野県松本市が当該地として選定され、各種官邸など政府の主要機関が移築された。



セカンドインパクトによる 世界情勢の変化と政府の対応

セカンドインパクトの発生から2015年までに、地球規模の軍隊を有する存在となった国連。その加盟国であった日本もまた、当然のごとく国連の活動に参画した。政府は積極的に協力体制を築きあげていき、対使徒戦略に欠かさない研究施設の建造など、早くから様々な活動を支援してきた。

しかしその一方で、国連主導のもとに建造された第3新東京市を目指して使徒が侵襲してくることを懸視する声や、NERVの不透明な活動内容や複数のEVAを所有することを危険視する向きが多かったことも事実である。そのためか、国連には一応の協力を見せたい日本政府も、その直属の特務機関NERVに対する対応は好意的とはいえないものだった。



観自研の所有物を貸し出すなど、使徒侵襲はEVAを有するNERV本部に任せ、自分はサポート役に徹していた政府。ただ、一部にはNERVが強すぎる力を持つことを危険視する者もいたようだ。

日本政府と国連の協力による 対使徒戦略を見据えた復興

復興において首都機能の移管を最優先とした日本政府は、第2新東京市を建造。ここを新たな首都とする一方で、日本は一応の落ち着きを取り戻す。しかし、次の首都移管地となる第3新東京市は、国連の意思によって建造が進められた。その主眼は「対使徒戦略」の本拠地建造であり、無論、その意思は日本政府にも伝えられたはずである。ただ、伝えられた情報はほんの一部であったと考えられ、政府はNERV内部に間諜を送り込むなどの手段を講じ、独自に情報入手する必要に迫られることとなる。

特記事項

首都圏と各地方都市の繋がり

セカンドインパクト以降は各地方都市の復興も途方に迷い、2015年においては全国規模で電力の供給経路が確保されるなど、実生活にはない程度に回復した意図が見受けられる。ただし、情報の供給については首都圏と地方で格差が見られ、使徒の脅威は地方の住民には実感できないものとなっているようだ。各地方都市においては、第3新東京市で起きる出来事に関して情報統制がかけられている可能性も考えられる。

日未明



サンマ作戦進行時には、全国各地で大規模な移管が起ることを知らせる臨時ニュースが流れた。名無し、移管の理由については伏せられていたようだ。

北海道 洞爺湖市

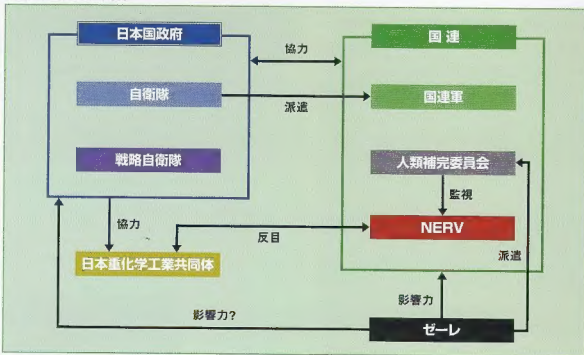
日本政府の 組織概要

セカンドインパクト以降の国際社会では、国連と協力機構を持つことが半ば義務と化していた。ただし戦力という一面を見れば、日本政府は独自の組織体系を築いていたといえるだろう。

使徒の脅威にさらされた世界、特にNERV本部があった日本においては、それに対抗する戦力の確保が重要事項であった。実質的には傘下に加わるようになるが、強大な組織である国連（あるいはその背後にあるゼーレ）との繋がりによる

戦力の確保は必須であったといえる。ただし政府は、国防省直属で国連軍に組み込まない戦略自衛隊、公になっていないものの協力体制にあった日本重化学工業共同体といった独自の戦力や研究施設を有するしたかきも持っていた。

● 対外組織との関係



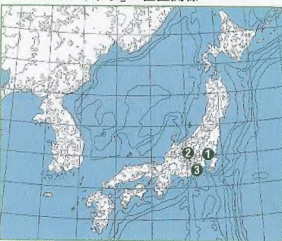
セカンドインパクトの 影響と都市の復興

未曾有の大災害セカンドインパクトにより、大きく様変わりした国土。政府は組織の再編と同時に、都市の復興と首都機能の移管にも着手せざるを得ない状況に直面した。

セカンドインパクトの影響は、日本各地に爪痕を残した。特に東京都市圏は復興を断念せざるを得ないほど壊滅的な状態に陥り、首都機能を移管する都市の選定、建設が急務となった。2003年には第2新東京市が完成に至り、それを皮切りに各都

市の復興も進行。さらに2005年には、第3新東京市の建設が始まる。なお、第2、第3新東京市の建設手法、理由については明らかにされていない。ただ、後者については国連の意向が反映されたと考えられているだろう。

● A.D.2015 「東京」の位置関係



① 旧東京

2000年、セカンドインパクトの影響により大半が海中に没したうえに、テロリストの攻撃により首都機能が失われた旧東京。2015年において旧都心部（第28放置区域）は完全に放棄されているものの、沿岸地帯では復興計画が進行。大企業の研究施設などが建設されている。



様々な企業の連合体であり、対使徒戦を視野に入れた大型自衛兵器A（グッドアロー）を建造した日本重化学工業共同体。その研究施設も、旧東京沿岸地帯に建設されている。

② 第2新東京市（長野県）

旧東京の壊滅に伴って2001年に遷都計画が発動し、新首都として長野県松本市が選定される。同年には第2新東京市としての建設が始まり、2003年には完成に至る。2015年においては首相官邸などの日本政府の主要機能の移、国連本部もこの地に移管されている。



日本政府首脳が公務を行なう首相官邸。国連の存在が失われ、自立した日本の行政機関の中枢にもある。なお、戦略自衛隊の活動などについても、首相の指示に基づいて行なわれていた。

③ 第3新東京市（神奈川県）

2005年、国連主導により建設計画が発動。第2新東京市は臨時の首都とされ、この第3新東京市に首都機能を移管する計画が進められる。ただし、2015年においても完成には至らず、いま首都機能の移管は行なわれておらず、実質的には国連の本拠地といった格好を呈している。



神奈川県足柄下郡箱根町石原付近辺に建設された第3新東京市は、建設の対使徒戦において、すでに使徒戦が想定されていたという。なお、人口が他国に少なすぎ、その大半がNERV関係者である。